第 91 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた
株式会社インターネットイニシアティブへの追加質問及び回答
(移動通信分野における接続料等と利用者料金の関係の検証関係)

問 1 MNO各社による何をスタックテストの対象とするかのプレゼンについて、貴社として、必ずしも論理的に納得できない、理解できない部分について、コメント頂けると有難いです。

(佐藤構成員)

(インターネットイニシアティブ回答)

<NTTドコモ様のプレゼンに対する意見>

- 検証に関する指針は、市場の競争環境を踏まえて見直されているものと認識しており、指針の改定があった場合は競争環境に変化があったと考えられることから、検証結果に影響を及ぼす可能性がある料金プランについては、再検証するかどうかの検討はされるべきと考えます。

<KDDI様のプレゼンに対する意見>

- povov 2.0 360GB (365日) プランは、料金を前払いするプランで、12ヶ月間平均的にデータを利用されるわけではないことは理解しますが、1カ月間あたりの料金を広告表示してお客様に訴求していることを考えれば、十分競合プランになると考えます。

<ソフトバンク様のプレゼンに対する意見>

- ワイモバイルのプランは、プランに紐づく割引がすべてのお客様に適用されるわけではないことから、検証時の利用者料金はLINEMOよりも高い料金になる可能性も考えられます。そのため、資料 91-4 の P. 5 で示された内容をもってLINEMOの検証は不要とは判断できないと考えます。

<お試し割に関する検証について>

- 検証には、一定期間の実績データが必要であると考えますが、検証方法については各社のお試し割の内容を踏まえ速やかに検討頂き、MVNOに大きな影響を及ぼす場合には、速やかに検証をして是正ができる仕組みの準備をお願いしたいと考えております。

問2 営業費相当額の算出方法について、直近5年間の平均値により算出することに一定の合理性があるとしても、直近3年間の平均値又は6年間の平均値により算出することについても同様に一定の合理性があると考えられる。どの程度の期間の平均値を用いることがより合理的と考えるかについて、論理的に説明していただきたい。

(佐藤構成員)

(インターネットイニシアティブ回答)

○ 指定事業者が提供している料金プランについては、市場の競争環境を捉え、定期的に（早ければ毎年、長くても概ね2、3年程度で※）料金プランの改定や刷新が行われているものと考えております。

競争事業者であるMVNOは、指定事業者が現在提供している料金プランと市場競争を行っており、改定や刷新がされる前の料金プランで費やした営業費を用いることは直近の状況を適切に反映しているとは言えず、営業費相当額については、料金プランの改定や刷新のサイクルが行われている期間程度とすることが合理的と考えられるのではないのでしょうか。

よって、直近5年間の平均値ではなく、もう少し短い期間の平均値を用いることを検討頂きたいと考えております。

※以下は一例となります。

○NTTドコモ

ahamo 2021/3/26 提供開始

ahamo 2024/10/1 改定 (20GB→30GB データ増量)

○KDDI

UQ mobile コミコミプラン 2023/6/1 提供開始

UQ mobile コミコミプラン+ 2024/11/12 改定 (20GB→33GB データ増量)

○ソフトバンク

ワイモバイル シンプル2M 2023/10/3 提供開始

ワイモバイル シンプル2M 2025 春頃改定予定 (20GB→30GB データ増量)
2025/1/1 より先行キャンペーンにて適用